



<ひとこと>今月からあいネットの職員が増えます。私とは、歳は2周り程上ですが、誕生日は同じです。

グループホーム入居の流れ 11月25日開催



11月25日に第4回千葉県障害者グループホーム講座(あいネット共催)が開催されました。今回はグループホーム入居の流れ(送り出す側と受け入れる側の想いとテーマで、6人のシンポジストからお話を頂きました。受け入れる立場であるグループホーム側は、食事管理、服薬管理、金銭管理をある程度出来る状態にしてから入居して欲しいという意見がありました。

しかし、送り出す精神科病院としては、病院は治療をする場所であり、特に長期入院されている方の金銭管理の訓練には限界があるという意見が出ました。病院と地域をつなぐ地域移行推進員の立場としては、入院患者が退院して地域で暮らす際、すべて出来るようになってからの退院では、なかなか地域で暮らす事は出来ない。

出来ない部分については日常生活支援事業を使う等してグループホームだけで抱えない体制を作る事で補っていく事が出来るのではないかとこの意見が出ました。

交流会では「利用者を受け入れたのはいいが、その後が大変だった」という意見が世話人から出ました。送り出す側と受け入れる側との間で利用者がグループホームに入居する前にどれだけ利用者の情報共有が出来ているのか、というのが大きな課題だと感じました。

法人後見を考える

「しぐなるあいず」の活動から

法人として成年後見を引き受けている松戸市の「NPO法人 しぐなるあいず」の理事長の泉幸江さん(理事)のお話を伺う機会がありました。(以下要約内容)

「しぐなるあいず」は平成18年に法人格を取得。その理念は障害の人が地域で生きていくをまちづくり。母体はPACカーディアンズ(以下PAC)。

PACは県下の育成会の代表が集まり、成年後見の勉強を進めていたが、地域に受け皿が必要と松戸市で勉強会から始め、松戸市の協働事業(3年間)も始め、法人の認知が広がった。県の委託の「法律と生活の相談室」(月1回)を弁護士や司法書士、社会福祉士が行っている。今は裁判所から後見の依頼が来るようになった。専門職+協力員(見守り)という体制で動いている。協力員登録は18名。今は高齢者のニーズが高いが障害者のことをがんばりたい。

* * * * *

具体的な事例では、市長申立で始まった父子家庭(父は要介護)の20代の知的障害者の後見支援のお話。行政の協力も得られており、3ヶ月に1回の支援会議が父側の支援者も入って行われ、本人の口腔ケアの課題では歯磨き指導を通所職員が絵や写真で指導し、ヘルパーが

おしゃべり会

11月28日、柏駅近くにてボーリングを行いました♪



実際の支援をするなどの連携が細かく行われているとてもうまく行っているケース。今後は親亡き後の生活などの課題が出てくる。

わかったこと②後見はファミリー全体のサポートだということ、またお金も身寄りもない人のサポートが多く、一法人では難しい。今の後見制度上の問題があることなどにも取り組んでいく必要があるなど。

課題は人と財源。助成金と寄付(18名の賛助会員)でまかなわれており、ぷらす熱意が力。

後見に関わる相談はあいネットにも寄せられており、法人後見、市民後見人に取り組みれば解決という話ではありませんが、必要を感じる人や関心を持つ人と一緒に考えていく機会があればと考えています。


地域生活支援フォーラムと千葉県障害福祉10周年を振り返ってこれからを展望する

11月20日に参加しました。「地域生活支援システム各種の強化」があげられました。

午前中は柏市「ぼおぼ」代表の五十嵐さんからはこの10周年を振り返った話がありました。「障害者自立支援法の確保(GHやCH)が必要で等々の制度は充実してきた。制度を否定するつもりはないが、制度だけになってしまいが、問題はあり、法律による事は問題であり、法律による必要である」という問題提起があり閉幕となりました。

午後からは対談形式で保護者の3人の方からこの10年の振り返りの話がありました。「措置から契約に変わり、サービスを選べるようになった。特にヘルパー制度の利用をしやすいになった。」「子ども達の生活は入所だけでなく、地域で暮らせるようになった」との意見も出ました。「その反面、「後見制度については本人の自由性が少なく、被後見人が後見人にすべてを合わせざるえない現状があるのではないか」という課題もあげられました。

その後はシンポジウムが開催され、4人のシンポジストからこれからの10年を語っていただきました。今後の取り組みとしては、「相談支援体制の整備とケアマネジメンのシステム化」、「自立支援協議会の機能強化」、



社会福祉法人共働学舎 柏ゆうび NPO法人フリースクール ゆうび小さな学園



広い校庭や、屋内プール、体育館のような空間。運動から音楽活動まで幅広く利用できるスペースの一角には、利用者が店長をしているカフェ「イナバウアー」があります。

1989年4月開園した”ゆうび”は、2010年9月に社会福祉法人共働学舎社会事業授産施設「柏ゆうび」を開設しました。活動内容は左下のとおり。



- ① フリースクール「ゆうび」の学園生に対する支援・指導
- ② トイレットペーパーの販売
- ③ ペットボトル・アルミ缶の回収
- ④ さをり織りの制作、販売
- ⑤ 作物・花を育て販売
- ⑥ コミュニティーカフェの開店と運営
- ⑦ 手芸教室、絵の教室の作品販売
- ⑧ 自転車、家具などの修理・補修を承る仕事
- ⑨ 高齢者だけのお宅を訪問ご用を承る仕事
- ⑩ 「ゆうび小さな劇団」や「バンド活動」

フリースクールの活動「フリースクールゆうび小さな学園」も今までどおり行われています。年齢に関わらず、ゆうびの活動をしたいと考えている人なら誰でも利用可能です。

平日の日中は主に不登校や所属がない人の居場所として、夜や土日になると、別の場所で活動を終えた人が集う憩いの場として利用されています。

インタビューをさせていただいた内堀さん、植田さんからの「ゆうびに来たいと思っている子が来られる場所であるよう、本人たちが持っている個性を認め、その子たちに合わせた場が必要です。本人たちが意欲的になるような働きかけをしたいです」という言葉が印象的でした。

柏ゆうびの活動

<開園日・開園時刻>

お盆、年末年始以外は毎日開園。

平日：10時～22時

土日祝日：10時～19時

<見学・利用などのお問合せ>

社会福祉法人共働学舎 柏ゆうび

NPO法人フリースクール ゆうび小さな学園

住所：柏市豊四季 360-2

電話：04-7146-3501

おしらせ

◇こちらのコーナーへ掲載希望の方は、あいネット(電話:04-7165-8707FAX:04-7165-8709)まで◇

講演名	日時	場所	費用	申込み	問合せ先他
点字講習会～基礎から点字の書き方、読み方を学ぶ～ (基本的に第2、第4火曜日を予定)	12/9 (木) 12/14 (火) 13:30 ～15:00	柏市松葉町 6-8-1 (マルエツ向かい)	無料	不要	問い合わせ: 福祉作業所ポコアポコ 担当:藤原、松平 TEL:FAX/04-7136-0505
点字名刺、販売 Aタイプ:100枚=2500円 Bタイプ:100枚→1000円 ☆納期:受注後2週間 (詳細はお問い合わせください)					
第17回 障害者週間の集い シンポジウム・心の病の理解をいかに広めるか・・・千葉県での取り組み!～理解を深め差別・偏見を無くすために～	12/9 (木) 13:00 ～16:30	千葉市民会館(地下1F) 小ホール 千葉市中央区要町1-1	無料	不要	主催:千葉県・NPO法人千葉県精神障害者家族会連合会 TEL:043-224-2431
医ケアママサロン Christmasのお誘い クリスマスコンサート オカリナ&ギター(松戸特別支援学校・岡田敏男先生) ママサロン(パパもOK)&子どもはぷちクラフト	12/25 (土) 13:30 ～15:00	たんぽぽセンター 千葉県柏市柏下135-1 (JR北柏駅より徒歩15分)	大人500円 子ども無料 (お茶&スイーツ代)	必要 ※切: 12/21(火)	たんぽぽセンター・大久保 TEL:04-7160-1239